

min-na うれしい！

~Everyone is happy!!~

市立札幌開成中等教育学校 5期生 第3学年通信

発行:平成30年11月21日 水曜日

No.44

みな うれしい

今年も残りわずか！時間を大切に！

冬休みまで約1ヶ月となりました。今年やり残したことはありませんか。忙しい日々を追われると、1年の最初に考えていた目標や大切にしていたはずのことは、いつの間にか抜け落ちていきます。日々の授業での課題、CP(コズモプロジェクト)、SA(service as action)など、様々なことに取り組んでいる今だからこそ、改めて何のためにこれらの取り組みをしているのかを再確認し、どのように自分の時間を使っていくべきなのかを考えてみてください。肩の力を抜いて、ふと日々を眺めてみると、今よりさらにいい日々の過ごし方、物事への向き合い方が見えてくると思います。さあ、あと1ヶ月。悔いの無い日々にししましょう！

みなみの杜高等支援学校訪問を終えて

9月26日～10月31日にかけて、学級ごとにみなみの杜高等支援学校を訪問し、職業コースの実習を体験してきました。事前学習、訪問、事後学習を経て学んだこと、感じたことについて、少しだけ紹介します。

今回の研修は、2つの意味で初めてでした。1つ目は、支援学校に行くことそのものです。小学生の頃に、特別支援学級があり、その生徒と交流したことはありますが、人数も少なく、一度に多くの生徒と交流したのは初めてでした。また、2つ目として、学年の中で最初に行ったという意味で、初めてでした。他のクラスから感想等を聞くこともなかったので、多少の不安や緊張がありました。この2つの初めてを乗り越えた結果、障がいのある人への見方が変化しました。今までは、自分で十分に活動できない人たちのことを言うと考えていましたが、そんなことはありませんでした。しっかりと教えてくれたり、先導し、案内したりもしてくれて、私たちとほとんど変わらずにいました。そういう変化を得られたので、この研修は有意義なものだと思いました。(3年1組 男子)

みなみの杜高等支援学校は生徒の気持ちでいっぱい
の学校でした。みなみの杜のみなさんにはそれぞれ役割があり、一人一人がひたむきに仕事をこなしていました。みなみの杜のみなさんの仕事に対する考え方や熱意が行動に現われていて、日々の作業に対して私の気持ちがほとんど入っていなかった事が分かりました。みなみの杜のみなさんによって私の気持ちは変わりました。それ以来、私が行動を起こすたびに自身の気持ちを注ぐようになっていきます。それから私は自分の行動に自信と責任が持てるようになりました。今回、この経験ができて本当に良かったです。この経験が今後の人生の糧になっていくと思います。(3年2組 男子)





障がいのある方は、コミュニケーションをとることが苦手だという印象がありました。でも、みなみの杜に行くと、そんなことはないのだと感じました。作業時、失敗してばかりの私を見ても、「大丈夫だよ」と言いながら、色々と話しかけてくれて、申し訳なさでいっぱいだった私の心は和みました。今回のことから、障がいがあると意識してしまうと、その人の優しい心や笑顔と接することができなくなるということ、障がいがある、ないに関わらず、人は自分の得意とすることを他の人と共有でき、また誰かを助けられるあたたかい心を持っているのだと学ぶことができました。(3年3組 女子)

私はセンターコースを選び、実際にカフェの飲み物を自分で作って、センターコースの方々と茶話会形式で交流した。そこで驚いたのは、みなみの杜のみなさんのコミュニケーション力だ。積極的に話しかけてもらって、自分だったらできないだろうなと感じることが多々あった。今回の交流を経て、私達と同じように、みなみの杜のみなさんからも学ぶべきことはたくさんあるのだから、それを尊重していくことが、「共生社会を生きる」ということだと学んだ。また、「心のバリア」の本質は、「障がい」という言葉そのものなのではないかと考えた。(3年4組 男子)

